

● インタビュー

高信頼なWindowsシステムを支えるトータルソリューションを展開

システム技術の高度化に伴うWindowsのミッションクリティカル領域への適用拡大を受け、Windowsプラットフォーム上での設計、開発、運用ノウハウを持つNTTデータは、高信頼なWindowsシステムを支えるトータルソリューションの展開に注力している。インフラからアプリケーション領域まで、Windowsシステムの高可用性実現に向けた取り組み状況について、基盤システム事業本部システム方式技術ビジネスユニット（BU）の切田仁BU長にうかがった。

既存ノウハウを新しいWindowsプラットフォームに活かす

——最近、Windowsシステムの可用性向上に向けた取り組みを加速されているようですが、その背景と狙いからお聞かせください。

切田 NTTデータでは、かなり以前からWindowsシステムの信頼性向上に向けた取り組みを行ってききましたが、ここにきてさらにそれを加速し始めた背景としては、大きく3つの点があげられます。第一に、インテル系プラットフォームの処理性能が向上してきたという点です。クアッドコアで4CPUのサーバですと、従来のミッドレンジ領域はもちろん、場合によってはハイエンド領域をもカバーすることができます。次に、Windows VistaやWindows Server 2008といったWindowsの世代交代の進展に伴い、セキュリティや信頼性、機能が一段と強化されてきていることがあげられます。3つ目に、米国では最近オープンソースもさることながら、Windowsの市

場が拡大しているという点で、このトレンドは日本市場にも波及すると捉えており、私どももWindowsに対する対応力を強化する必要があると考えています。

——かなり以前からWindowsに取り組まれてきたということですが。

切田 ミッションクリティカル領域へのWindowsシステムの適用が拡大し始めた頃から、大規模SIを通してWindowsベースのプラットフォームに関するノウハウを蓄積してきました。例えば、金融機関向け専用端末（営業店端末）や店舗向けサーバでWindowsをかなり使い込んでおり、その際にはブルースクリーンと呼ばれる重大なトラブルに対応するために、マイクロソフトとの共同研究を通じてWindowsに関する様々なトラブルの原因を解析するソリューションを自前で開発。2000年にWindowsシステムの故障解析ソリューション「Naccident」として提供するなど、故障解析に関する高いノウハウを有しています。こういったこれまで蓄積した技術・ノウ



(株)NTTデータ
基盤システム事業本部
システム方式技術ビジネスユニット長
切田 仁氏

ハウを新しいWindowsベースのプラットフォームに合わせてリニューアルし、システムの高信頼化を実現していきたいと考えています。

Windowsの高信頼化を支えるトータルソリューションの提供に注力

● 既存ソリューションの再整備

——詳細は各論頁でご紹介しますが、高信頼化に向けた取り組みのポイントをお聞かせください。

切田 システム・インフラとアプリケーションの両面について、それぞれ設計段階から製造・試験、設置、運用の各領域に対応したソリューションをトータルにラインナップし、Windowsシステムの高信頼化を図っていきたいと考えています。例えば、Windowsシステムを開発する上でのモデルの充実化を図ったり、開発の効率化と品質向上を支援する「TERASOLUNA for .NET」の提供。Visual Basic .NET に移行する

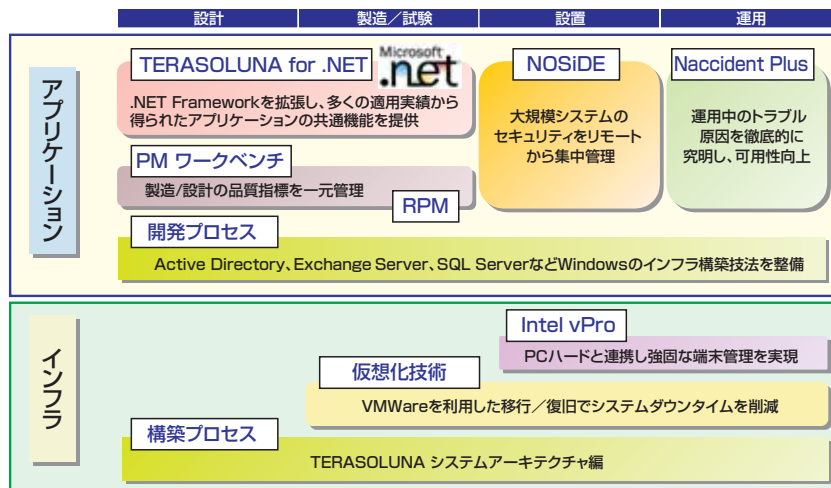


図1 高信頼なWindowsシステムを支える
NTTデータのトータルソリューションラインナップ

ためのVBマイグレーションや新OSへの更改にあたっては、万が一、未知の問題が発生した場合でも故障解析サービス「Naccident」がありますので安心です。プロジェクトマネージャ向けには、品質管理ツール「PMワークベンチ」とVisual Studioの連携により、より低稼働でリアルタイムにプロジェクト品質が管理できるツールも用意しています。

● VMwareを活用したサーバ統合

切田 さらに、システム・インフラに関しては、この2～3年で急速に企業へ浸透してきた仮想化技術に注目をしており、仮想化ソフト「VMware」への取組みを強化し、サーバ統合や、Windowsプラットフォームの堅牢性やセキュリティの向上を図るソリューションの提供に注力しています。これによりサーバ統合によるTCOの削減、既存ソフトウェア資産の継承、システム冗長化、開発・テスト環境の効率化、シ

ンクライアントと組み合わせたセキュリティ強化が可能になります。また今後、WindowsベースのFT（フォールト・トレラント）サーバ上でVMwareがサポートされると、限りなくダウンタイムゼロのサービスも可能になると期待をしています。

——VMwareについては、昨年6月に1次代理店契約を結んでいますね。

切田 2001年から取組みを開始し、社内への展開を経て、昨年から本格的なビジネスを展開しています。私どもは、「VMware認定プロフェッショナル」の資格を持つ技術者を多数擁しているほか、社内の200以上のプロジェクトでVMware製品を活用してきた実績、技術ノウハウがあります。昨年11月にロスアンゼルスで開催された「VMworld2006」においては、アジアパシフィック地域のライジングスター（新人賞）として表彰されました。

● vProを活用したソリューション

——本年5月、インテルとの協業を発



写真1 VMwareライジングスター（最優秀新人賞）の受賞楯

表されましたが、これもトータルソリューション実現に向けた取組みの一環ですか。

切田 そうです。インテルvProテクノロジーは、ビジネス向けPC市場に大きな変革をもたらす技術です。vProに搭載されたAMT（アクティブ・マネジメント・テクノロジー）による管理機能、VT（バーチャライゼーション・テクノロジー）による仮想化機能を活用してセキュリティの向上、仮想化環境の運用効率の向上も実現できます。これまで取り組んできたシンクライアントソリューションの発展形として、vProを活用した、メンテナンスフリーでセキュアな端末系ソリューションも用意したいと思います。

——最後に、今後の抱負をお聞かせください。

切田 Windowsシステムに関し、サーバから端末、データセンタまで含め、トータルにサポートできる体制を確立し、関連ソリューションの整備・拡充に注力していきたいと考えています。

——本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長 河西義人）